

油田あぶらでん

不詳、耕地整理の際下油田に編入された。

籠田かごた 乙六三二ノ一〜七五一 (現 沖中田)

春日神社の南西一帯の水田地帯、昔は水利が悪く、箆より水持ちが悪いとの意で付けられた地名と伝えられている。

広面 (ヒロモチ) などの旧称も含まれる。

宮北みやきた 乙七五二ノ一〜八五九 (現 沖中田)

鎮守春日大社の北西佐賀瀬川添えの地帯。旧称山ノ下・杉ノ先 (スギノサキ) ・与一新田・沢ノ目などの地域で耕地整理の際に編入された。

西川原にしがわら 乙八六一〜九〇五 (現 沖中田)

集落の北西約一キロメートルの佐賀瀬川北側川添えの地帯、地名の如く川原状態の地を開田したと云う。

木戸西きどにし 乙四八五〜六三二 (現 沖中田 木戸西)

木戸東きどひがし 乙三五五〜四七七 (現 沖中田 木戸東)

牛川新堀より鉄道線路までの間の地名。風間何某 (鶴浦甲斐守・奥州会津新鶴村誌) の館の通路に設けられた木戸 (門) の夫々西側・東側の意と伝えられる。下川原と云う旧称の地域も含まれる。

狐壇きつねだん 乙二〇一三〜二二〇五 (現 狐壇)

狸壇なぬきだん 乙二二〇六〜二二七八 (現 狸壇)

昔、八反街道を通る人々がこの地辺で、狐狸に化かされたと言う話から付けられた地名と云う。狐狸の巣穴が多くあったので、誰云うとなくついた地名とも云う。

中川原なかがわら 乙三〇〜二〇三ノ一 (現 沖中田)

赤沢川の東、出川 (イデガワ) までの地帯で、赤沢川の氾濫の度に川原状になるのでついた地名と云う。

出向でむかい (現 沖中田)

出川と鶴沼川までの間の旧地名、出川の向こうの意耕地整理で中川原に編入。

江向えむかい 乙二〇九〜三〇五ノ一 (現 沖中田)

集落東に「色海 (シキミ)」と云う中江 (沼) がありその向かうの意と伝えられる。

悪津あくつ (現 阿久津・鶴野辺丙)

元この地は低湿地で悪津と云われていたが、悪は好ましくないので寛文年間 (一六六二〜一六七二) に今の文字に改められた。

明治後期の面積は、東西二町二〇間・南北二町戸数は二〇軒であった。神社―稻荷神社・寺院―阿弥陀寺